空の安全・安心を！闘う労組の解体阻止！整理解雇４要件を守れ！

京都のつばさ 街頭宣伝用ニュース 第23号 2013.11.18

日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議・発行

京都市中京区壬生仙念町30-2 ラボール5F 京都総評気付℡075-801-2308（第28回定例宣伝）

稲盛名誉会長はJAL165名の解雇撤回を！
稲盛イズム＝「儲けなくして安全なし」

私たちは一昨々年大晦日に日本航空に解雇されたパイロットと客室乗務員142名です。不当な解雇は撤回せよ！と裁判で闘っています。ご支援よろしくお願いします。
We are 142 crew members,pilots and flight attendants of Japan Airlines,who were dismissed on New Year's Eve 3 years ago.We brought this case to court in order to reverse this unfair dismissal.
(We were dismissed due to age discrimination and sick-leave record in the past.)
Your kind understanding and support would be greatly appreciated.Thank you.
우리들은 2010년 12월 31일, 일본항공사에서 해고당한 파일럿와 객실승무원 142명입니다.부당한 해고에대한 철회를요청하는재판을걸고 투쟁하고있읍니다.여러분께, 많은 지원을 부탁드립니다.

JAL不当解雇撤回闘争の山場

JAL稲盛和夫名誉会長年間最大イベント＝京都賞に抗議の声

大雨の秋の京都で、稲盛イズムへの怨嗟の声がわきおこった。１１月１０日午後、京都市左京区の国立国際会館前で「第29回京都賞」授賞式参加者への抗議宣伝行動を行なった。これは稲盛財団が毎秋実施し、内外の学者・文化人３人に各５千万円もの賞金を授与する催し。JALの稲盛和夫名誉会長自身にとっても、年間最大イベントだ。

この裁判闘争上も山場にあたり、稲盛和夫JAL名誉会長に対しJAL１６５名の不当解雇撤回を求めて、「日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議」（脇田滋代表世話人）がJAL不当解雇撤回原告団とともに実施したもの。JAL不当解雇撤回愛知の会からの参加も得た。

急な冷え込みから紅葉も色づき始めた左京区宝ヶ池の会場には、合同繊維労組、京教組、自立労連、中金労組、JAL闘争を支える京都の会、通信労組をはじめ支援組織の労働者・市民や当該原告団などが大雨にも関らず大挙駆けつけ、「JAL稲盛和夫会長は１６５名の不当解雇を撤回せよ」とか、「稲盛名誉会長（京セラ創業者）はJAL乗員・客乗原告と直接交渉せよ」、「あの空へ帰ろう」などと大書した横断幕やノボリを持ち、授賞式参加の人たちに呼びかける。ビラもま

く。京都で自営業を営んでいるJAL原告団の高校の同級生や知人・友人なども参加者として激励の声をかけてくれて通る。「JAL不当解雇撤回」のバッチをつけた人もいる。一時間半で四百枚ものビラがはけ、関心の高さを示す。ひとり「稲盛教」の信者だけの集会ではないので、ライオンズクラブ会員への案内などでの参加者もあり、「ゴミ箱を設置してのビラ回収」など主催者としてやりたくてもできないようだ。

はじめ京都総評の宣伝車は会場入り口近くに止めていたら、一昨年などは「会館のものだ」と言ってたくさんの男たちが現れ、「管理地だから出て行け」（あとで聞いたら京セラの社員の語りだとわかる）と追い出しにかかってきたが、今年は所轄警察署刑事が現れた。こちらは最初から宣伝車は近所への流し宣伝用に考えていたが、留め置きより向いのホテルで宿を取った賓客や、会場入り口近くや近隣への宣伝も出来、効果が絶大となった。

地下鉄や駐車場から参加してくる人たちに、ビラを配布しながら「もうけなくして安全なしの、稲盛会長の不当労働行為は京都の労働者は許さない」と国労京滋地区本部やJMIU・日本電産シンポ、明治乳業など地元の民間争議団のメンバーも連帯挨拶。乗員原告・山口宏弥団長と客乗原告・内田妙子団長をはじめJAL原告団の7人が、こもごも「必ず勝ってあの空の職場に戻る」と力強いマイクによる決意表明。

両原告団長を先頭に代表団を編成し、稲盛名誉会長宛ての「責任ある誠実な対応を求めます」との要請書を手渡しに会場に向う。途中、京セラの総務が出てきて会場への道をふさぐ。押し問答の末、山口団長が「165名の整理解雇が更正計画の手続きを利用した組合つぶしであったことが、余す処なく明らかにされました。安全を支えているのは現場であり、現場の声を発信するのがもの言う労働組合です。JR 北海道の例を見るまでもなく、ものを言う労働組合の弱体化は、会社自らが安全の土台を切り崩していることに他なりません」などの内容を全文読み上げ、京セラ総務担当に手渡した。

宣伝集約では京都支援共闘代表・梶川憲事務局長が参加者へのお礼の挨拶、内田原告団長のお礼と決意、最後山口原告団長の力強い発声で「日航を京セラにするな。空の安全を守れ」「稲盛会長は解雇を撤回せよ」と、シュプレヒコールを参加者全員で行った。